

各種事業の詳細報告

教員養成学校教員対象音楽トレーニング

期 間	2008年4月21日～4月30日 計10日間
	2009年3月11日～3月20日 計10日間
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プノンペン市教員養成学校 音楽室
講 師	ラム・ダラボン氏
	テップ・クンティアレット氏(王立芸術大学) ヒム・サヴィー氏(JHP契約講師・王立芸術大学)
参加者	幼稚園教員養成学校1名、小学校教員養成学校24名、中学校教員養成学校7名、教育省教員養成局1名 計33名
目 的	各教員養成学校で音楽授業を行うことができるように、音楽教員を育成する。
学 習 内 容	クメール・外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配布教材	ワークショップ用テキスト(ヒム・サヴィー氏作成)
成 果	ほとんどの教員養成学校で音楽授業が実施されるようになった。 教育省が音楽教育の時間を増やしてもよいという通達を各教員養成学校に出し、それに基づいて週1時間から2時間に増やした学校が出てきた。
課 題	今後はこれまでのトレーニング内容を踏まえて、教員養成学校での音楽教育カリキュラムを作成し、教育省による認定を受ける等、確実に音楽教育が根付くように継続して活動する必要がある。 音楽トレーニングを受講した教員が定年退職や転職により、音楽教員不在の教員養成学校が出てきている。来年度以降のトレーニングに招待する等のフォローが必要である。 各学校で音楽授業が行われているかどうか、継続して調査を行っていく必要がある。

現職教員対象音楽トレーニング(初級)

期 間	ワークショップ(計10日間): 2008年9月8日～10日、9月12日～9月13日、9月15日～17日、11月3日～4日
	フォローアップ(計6日間): 2008年12月15日～16日 2009年1月5日～6日 2009年3月24日～25日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プレイベン県中学校教員養成学校
講 師	ヒム・サヴィー氏(JHP契約講師・王立芸術大学)
参加者	プレイベン県コンボンリエウ郡・パーブノン郡・ピームロー郡・メーサン郡・プレアスダイ郡の20小中学校の教員・郡教育局 計33名
目 的	・音楽教育の理解を深める。 ・音楽の基礎理論・基礎技術の習得。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配布教材・楽器	講師作成テキスト、生徒用教科書(クメール語の歌)・カセット各1冊、鍵盤ハーモニカ1台、ソプラノリコーダー1本
成 果	受講生の音楽理解度が高い。 郡教育局との協力関係により、各学校への連絡や調査等に関するJHPの負担が軽減されている。
課 題	来年度も継続して順調にトレーニングを進めていく。

現職教員対象音楽トレーニング(上級)

期 間	コンボンチュナン県 ワークショップ(計10日間): 2008年8月4日～6日、8日～9日、11日～13日、15日～16日
	フォローアップ: 2008年10月27日～28日 2008年12月22日～23日 タケオ県 ワークショップ(計10日間) 2008年8月18日～20日、22日～23日、25日～27日、8月29日～30日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
	フォローアップ: 2008年10月23日～24日 2008年12月29日～30日
場 所	コンボンチュナン県 ワークショップ: サエップ中学校講堂 フォローアップ: コンボンチュナン県小学校教員養成学校 タケオ県 タケオ県中学校教員養成学校音楽室
講 師	ヒム・サヴィー氏(JHP契約講師・王立芸術大学)
参加者	コンボンチュナン県コンボントライ郡、トゥックボ一郡、タケオ県トラムコック郡他、シアヌークビル市小中学校教員、郡教育局スタッフ(計28名)
目 的	・参加者の音楽知識・技術のフォローアップ。 ・初めての音楽コンテストに向けての指導。 ・音楽授業を行う中で出てくる問題・疑問を解決させ、授業内容を充実させる。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
成 果	トレーニング全日程を終了し、全ての学校で継続して音楽授業が行われている。音楽授業に対するモチベーションが高い教員が多い。
課 題	トレーニング経費節減の観点から、プノンペンに受講生を招待する方法から、各地域で2回に分けてトレーニングを実施する方法へ変更した。そのためJHPスタッフのスケジュールが過密となった。

音楽授業実施校の推移

市・県名	07年3月	08年3月	09年3月
プノンペン市	8校	9校	11校
シアヌークビル市	14校	17校	17校
カンダール県	5校	5校	5校
タケオ県	9校	12校	11校
コンボンスプー県	31校	32校	31校
コッコン県	2校	2校	1校
コンボンチャム県	13校	13校	13校
コンボンチュナン県	3校	17校	17校
バットアン県	1校	1校	3校
プレイベン県	1校	1校	22校
スパイリエン県	0校	0校	1校
カンボット県	0校	0校	1校
コンボントム県	0校	0校	1校
ブルサット県	0校	0校	1校
パンテアイミアンチェイ県	0校	0校	1校
シェムリアップ県	0校	0校	1校
クラチェ県	0校	0校	1校
ストゥントレン県	0校	0校	1校
プレアピヒア県	0校	0校	1校
合 計	87校	109校	140校

第5回音楽コンテスト

概要	音楽トレーニング参加者および卒業生が音楽授業を行っている学校を対象に、2004年度より年1回「音楽コンテスト」を開催している。本年度は6市県で地区予選を行い、10市県より97校が参加。各地区予選の優勝校計8小学校と中学校全8校がプノンペン市での決勝に進出した。				
開催都市	プノンペン市、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県、コンボンチュナン県				
参加校数		小学校	中学校	小学校教員養成学校	中学校教員養成学校
	プノンペン市	3	1	1	0
	カンダール県	2	1	1	1
	コンボンスプー県	25	2	1	0
	タケオ県	6	3	1	1
	シアヌークビル市	16	0	1	0
	コンボンチャム県	10	0	1	0
	コンボンチュナン県	13	4	0	0
	コックコン県	1	0	0	0
	プレイベン県	0	1	0	0
	バタンバン県	0	1	0	0
計	76	13	6	2	
参加校数	地域	開催日	参加人数	優勝校	
	プノンペン市	09/1/30	321	クデタコイ小学校	
	コンボンスプー県 (ウドン郡プレイバンクラスター)	09/2/3	290	ラスメイサマキ小学校、プレイバン小学校	
	コンボンスプー県(ウドン郡)	09/2/4	264	アキャモヘイセイ小学校、ワットプノン小学校	
	コンボンスプー県 (パーサット郡)	09/2/5	429	アンロントン小学校、タヌーン小学校	
	コンボンスプー県	09/2/6	1,358	アキャモヘイセイ小学校、アンロントン小学校、チャントゥナール中学校	
	タケオ県(トラムコック郡)	09/2/11	153	ウドンソリヤ小学校	
	タケオ県	09/2/12	306	ウドンソリヤ小学校、ソックアントラムクナー中学校	
	コンボンチャム県(プレイチャー郡)	09/2/17	200	ブンラニーコー小学校	
	コンボンチャム県(オーリヤンアウ郡)	09/2/18	176	チュレイタソー小学校	
	コンボンチャム県	09/2/19	153	チュレイタソー小学校	
	コンボンチュナン県(トゥックポー郡)	09/2/24	171	クランスキア小学校	
	コンボンチュナン県 (コンボントライ郡)	09/2/25	369	トゥナールトゥートン小学校、ワットクロン小学校	
	コンボンチュナン県	09/2/26	274	ワットクロン小学校、サエップ中学校	
	シアヌークビル県 (プレイヌブ郡)	09/3/4	446	スマグダエン小学校、ブレークプロス小学校	
	シアヌークビル県 (メタピアップ郡)	09/3/5	458	チアシム小学校、サクラ学園小学校	
	シアヌークビル県	09/3/6	234	チアシム小学校、サクラ学園小学校	
参加人数合計		5,602			
決勝大会	部門	開催日	参加校	優勝校	
	小学校部門	08/3/18	8校	アキャモヘイセイ小学校	
	中学校部門		7校	カンボジア日本友好学園中学校	
課題演奏	小学校部門 二部合唱(課題曲「かえるのうた」、「幸せなら手をたたこう」、「アラピヤ」より2曲)				
	中学校部門 二部合唱(課題曲「幸せなら手をたたこう」、「アラピヤ」より1曲) 二部合唱(課題曲「ロンドン橋+メリーさんの羊」、「ふるさと」より1曲) 小・中学校共通 楽器演奏(クメールの曲テキストより) 楽器演奏(外国の曲テキストより)				
成果	郡予選を開催したことによって観客数が増加し、より地域に根付いたイベントにすることができた。各地域の校長や教育局、教員養成学校と協力して、準備を進めることができた。				
課題	参加校の交通費や食費、会場費は郡予選を開催したにもかかわらず、思うように削減することができなかった。 楽器演奏で重奏を試みる学校が増えたが、曲のバリエーションが減り、面白みに欠けていたため、解決策を検討する。				

マーチングバンドプログラム



音楽ワークショップで指導する JHP 契約社員



音楽ワークショップ授業風景（タケオ県・上級クラス）



2008 年度に初めて実施した合唱指導。(コンポンチュナン県プーンチャ小学校)



音楽コンテスト優勝決定の瞬間（コンポンチュナン県予選大会より）

期 間	2008 年 4 月～2009 年 3 月まで	
時 間	コラップ 小学校 毎週木曜日（2009 年 1 月まで）、土曜日（2009 年 2 月より） ワットブノン中学校 毎週木・金曜日（2008 年 4 月から 6 月、10 月から 2009 年 3 月まで）、木曜日（2008 年 7 月から 9 月まで） 奇数月 14：00～17：00、偶数月 8：00～11：00 サクラクバルチュロイ小学校 毎週木曜日（2008 年 11 月まで）、土曜日（2008 年 12 月より） 奇数月 8：00～11：00、偶数月 14：00～17：00	
場 所	コラップ 小学校、ワットブノン中学校、サクラクバルチュロイ小学校	
対象者	コラップ 小学校児童	約 40 名
	ワットブノン中学生徒	約 70 名
	サクラクバルチュロイ小学校児童	約 40 名
	合計	約 150 名
内 容	鍵盤ハーモニカ、小・中・大太鼓、シンバル、トランペット、クラリネット、ベルリラ、キーボード等の楽器演奏、マーチング等の練習	
年 間 授業回数	コラップ 小学校：50 回 ワットブノン中学校：88 回 サクラクバルチュロイ小学校：50 回	
専 門 家 指 導	尾田一夫氏による指導 2008 年 5 月 26 日～6 月 13 日	
演 奏 績	4 月 28 日	スカウト設立式（タケオ県）（ワットブノン中学校）
	5 月 12 日	ブノンペン市スポーツ大会閉会式
	6 月 3 日	「国際子どもデー」イベント（コラップ 小学校・ワットブノン中学校）
	6 月 8 日	日本語スピーチコンテスト（ワットブノン中学校）
	6 月 20 日	スカウト設立式（パイリン市）（ワットブノン中学校）
	8 月 15 日	モハサン中学校贈呈式（サクラクバルチュロイ小学校）
	8 月 27 日	スクン小学校贈呈式（ワットブノン中学校）
	11 月 9 日	独立記念日パレード（ワットブノン中学校）
	12 月 2 日	12 月 2 日イベント（ワットブノン中学校）
	12 月 21 日	第 1 回 JHP 青少年によるコンサート（コラップ 小学校・ワットブノン中学校・サクラクバルチュロイ小学校）
	12 月 24 日	スカウト設立式（カンダール県）（ワットブノン中学校）
	12 月 29 日	スカウト設立式（ブルサット県）（ワットブノン中学校）
	1 月 7 日	勝利記念日イベント（ワットブノン中学校）
	1 月 9 日	勝利記念日イベント（カンダール県）（ワットブノン中学校）
	1 月 10 日	勝利記念日イベント（シムリアップ県）（ワットブノン中学校）
	3 月 8 日	メコンコンフェレンス（ワットブノン中学校）
3 月 20 日	JHP 音楽コンテスト決勝（ワットブノン中学校）	

第7回絵画展

参加校	教員養成学校 6 校・小学校 65 校・日本の学校 37 校		
作品募集テーマ	小学校・教員養成学校共通 『 』 をしている私、または誰か』		
作品提出校と回収数	地域	校数	作品数
	ブノンペン市	11 校	377 作品
	カンダール県	9 校	347 作品
	コンボンスプー県	16 校	614 作品
	タケオ県	10 校	396 作品
	シアヌークビル県	13 校	492 作品
	コンボンチャム県	12 校	511 作品
	日本	37 校	511 作品
	合計	108 校	3,248 作品
展示場所と期間	コンボンチャム県 PTTC	09/1/12~1/16	
	タケオ県 PTTC	09/1/19~1/23	
	ブノンペン市教員養成学校	09/1/26~1/30	
	コンボンスプー県 PTTC	09/2/2~2/6	
	タケオ県オントアソム小学校	09/2/10~2/13	
	コンボンチャム県オーリャンアウ小学校	09/2/16~2/20	
	コンボンスプー県アキャモハイセイ小学校	09/2/23~2/27	
	シアヌークビル県プレイヌブ小学校	09/3/2~3/6	
	シアヌークビル県 PTTC	09/3/9~3/13	
	カンダール県 PTTC	09/3/23~3/27	
表彰式・受賞者対象スタディツアー	2009/3/20		
来場者合計	14,029 名		
成果	<p>各市県の教員養成学校のみならず、本絵画プロジェクト参加校が多い郡でも絵画展を開催することができた。それにより、遠隔地の学校も絵画展が視察できるようになった。</p> <p>日本人専門家を交えた審査委員会の実施や表彰方法の改善が実現した。</p> <p>多くの参加者から好意的な反応を得ることができた。</p>		
今後の課題	<p>表彰式の運営方法を改善する必要がある。</p> <p>絵画展実施回数の増加により、JHP スタッフの負担が増えた。</p> <p>低学年の絵画展参加を促すことができるよう、実施方法を検討する。</p>		

* PTTC：小学校教員養成学校

美術授業実施校の推移

市・県名	07年3月	08年3月	09年3月
ブノンペン市	11 校	12 校	11 校
シアヌークビル市	11 校	13 校	13 校
カンダール県	8 校	9 校	9 校
タケオ県	8 校	9 校	17 校
コンボンスプー県	12 校	13 校	16 校
コンボンチャム県	10 校	10 校	12 校
コンボンチュナン県	0 校	1 校	2 校
合計	60 校	67 校	80 校

教員対象美術ワークショップ

期間	初級：2008年8月11日(月)～15日(金) 中級：2008年8月25日(月)～29日(金)		
場所	ブノンペン市教員養成学校 (MTTC)		
講師	パウ・ラスメイ氏 (JHP 講師)		
対象者	初級：2市4県より19名 中級：1市3県より20名 ブノンペン市、カンダール県、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県		
目的	<p>これまでの参加校から希望する教員(過去の参加経験は問わず)を対象とし、各校での絵画授業をより充実したものにできるようにする。</p> <p>絵画授業をはじめとする情操教育の重要性を知らしめる。</p> <p>地域で中心となって教え広める事が出来る、または意欲のある教員に対してサポートを行う。</p> <p>本トレーニング修了教員が、各々のクラスター、あるいは地域で他校の教員に教える事ができるようになり、教員自身が中心となって絵画教育活動を実践していく事が期待される。</p>		
講義内容(初級)	1日目	オリエンテーション、折り紙指導	
	2日目	折り紙指導、スタディツアーによる見学	
	3日目	描画の基礎	
	4日目	漫画絵、動物など、陰影の付け方、風景画	
	5日目	遠近法、絵の具の基礎・練習	
講義内容(中級)	1日目	初級ワークショップの復習	
	2日目	折り紙	
	3日目	陰影の付け方	
	4日目	2点遠近法、2007年8月隊との交流会	
	5日目	水彩画	
成果	<p>新規参加校 10 校の絵画教員を育成することができ、今後各学校でより多くの生徒が絵画教育に触れることが可能になった。また、多くの学校は毎年当会の絵画展視察に招待されており、絵画プロジェクトに参加希望を表明した学校である。</p> <p>中級ワークショップを新設し、絵画教育に熱意のある教員に更なるトレーニングを提供する機会ができた。</p>		
改善点	<p>5 日間で学習できる内容に限界があり、効率よく学習できる指導内容を検討していく必要がある。</p> <p>クラスター内での普及活動を行う講師を育成するためには、中級ワークショップのみでは不十分である。</p>		



美術ワークショップ(中級)授業風景

加入団体との提携

当会が加入している各団体における活動実績は以下の通り。

団 体 名	J E N																																								
	2008年度の復興支援活動地域はサイクロン被害を受けたミャンマーが新たに加わり、アフガニスタン、イラク、パキスタン（地震）スリランカ（津波被災者および停戦による帰還民の定住支援）南部スーダンの6カ国および中越沖地震被災地における復興支援の合計7ヶ所であった。パキスタン支援は2008年で実質的に終了するので、2009年にはパキスタンを除く上記6ヶ所の支援活動が引き続き実施される。2007年5月1日より理事の吉岡がJENの共同代表に就任している。																																								
団 体 名	地雷廃絶日本キャンペーン（J C B L）	<地雷Tシャツ販売数と寄付金>																																							
<ul style="list-style-type: none"> ・代表の小山内が世話人を継続。運営委員は七條がブノンペン事務所異動後、当会からは空席となっている。 ・当会の自主的活動として、地雷Tシャツを年間287枚販売し、57,400円をJCBLに寄付した。これまでの累計は4,180枚で、総額836,000円となった。 		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年 度</th> <th style="text-align: center;">枚 数</th> <th style="text-align: center;">寄 付 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1998（平成10）</td> <td style="text-align: center;">327</td> <td style="text-align: right;">65,400円</td> </tr> <tr> <td>1999（平成11）</td> <td style="text-align: center;">369</td> <td style="text-align: right;">73,800円</td> </tr> <tr> <td>2000（平成12）</td> <td style="text-align: center;">548</td> <td style="text-align: right;">109,600円</td> </tr> <tr> <td>2001（平成13）</td> <td style="text-align: center;">314</td> <td style="text-align: right;">62,800円</td> </tr> <tr> <td>2002（平成14）</td> <td style="text-align: center;">695</td> <td style="text-align: right;">139,000円</td> </tr> <tr> <td>2003（平成15）</td> <td style="text-align: center;">342</td> <td style="text-align: right;">68,400円</td> </tr> <tr> <td>2004（平成16）</td> <td style="text-align: center;">540</td> <td style="text-align: right;">108,000円</td> </tr> <tr> <td>2005（平成17）</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: right;">40,000円</td> </tr> <tr> <td>2006（平成18）</td> <td style="text-align: center;">291</td> <td style="text-align: right;">58,200円</td> </tr> <tr> <td>2007（平成19）</td> <td style="text-align: center;">267</td> <td style="text-align: right;">53,400円</td> </tr> <tr> <td>2008（平成20）</td> <td style="text-align: center;">287</td> <td style="text-align: right;">57,400円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;">4,180</td> <td style="text-align: right;">836,000円</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	枚 数	寄 付 額	1998（平成10）	327	65,400円	1999（平成11）	369	73,800円	2000（平成12）	548	109,600円	2001（平成13）	314	62,800円	2002（平成14）	695	139,000円	2003（平成15）	342	68,400円	2004（平成16）	540	108,000円	2005（平成17）	200	40,000円	2006（平成18）	291	58,200円	2007（平成19）	267	53,400円	2008（平成20）	287	57,400円	合 計	4,180	836,000円
	年 度	枚 数	寄 付 額																																						
1998（平成10）	327	65,400円																																							
1999（平成11）	369	73,800円																																							
2000（平成12）	548	109,600円																																							
2001（平成13）	314	62,800円																																							
2002（平成14）	695	139,000円																																							
2003（平成15）	342	68,400円																																							
2004（平成16）	540	108,000円																																							
2005（平成17）	200	40,000円																																							
2006（平成18）	291	58,200円																																							
2007（平成19）	267	53,400円																																							
2008（平成20）	287	57,400円																																							
合 計	4,180	836,000円																																							
団 体 名	アフリカへ毛布をおくる運動																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年度の収集毛布枚数は94,706枚、輸送協力金は66,891千円。配布枚数は92,000枚。配布先はエチオピア、ジブチ、ウガンダ、マラウイ、モザンビーク、ソマリア、スーダン、ケニアの8カ国。なお活動開始以来25周年になる2009年を機会にアフリカへ毛布をおくる運動を終了する方針になっていたが、その後運動を継続したいという要請が強くなり2012年まで継続することになった。 																																								
団 体 名	NPO事業サポートセンター																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・代表小山内が代表理事の一人。 ・NPO事業サポートセンターが主催する「NPOまつり2008」に出展した。事務局中込が実行委員として関わった。 																																								
団 体 名	国際協力NGOセンター（JANIC）																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種通知やメール等で国際協力に関する重要な情報を受け、活動を充実させることができた。 ・当会のボランティア募集、イベント情報、求人情報などの情報を掲載することができた。 ・ホームページ上で寄付を呼びかける寄付サイト（NGOサポート募金）に継続参加した。 																																								
団 体 名	港区国際交流協会																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・会報等で港区に関する情報を得ることができた。また、同会の会報に『国際ボランティア・カレッジ』のチラシを同封してもらったことがきっかけとなり、港区内の受講生を得られた。 																																								
団 体 名	教育協力NGOネットワーク（JNNE）																																								
	<p>教育が、貧困削減、男女格差是正、母子保健の改善、民主主義の強化のために、極めて重要な役割を果たすことを認識した世界の指導者たちは、2000年に教育に関して2つの開発目標の達成に向けて取り組むことを約束した。1つは、万人のための教育（Education For All）に向けたEFA目標で、2005年までに、初等教育および中等教育における男女格差の解消、2015年までに、教育における男女平等の達成を公約。2つ目は国連ミレニアム開発目標（MDGs）で、2番目のゴールとして初等教育の完全普及の達成を掲げ、2015年までに、すべての子どもが男女の区別なく、初等教育の全過程を修了できるようにする、を国際公約した。</p> <p>JNNEは、ユネスコが毎年発表している「EFAグローバルモニタリングレポート」を邦訳してこの国際公約をチェックしているが、1999年と比べて小学校に通う世界の児童は、2006年までに4000万人増加したものの、2015年までに134カ国で2900万人弱の子どもが学校にいないことになるとみている。ユネスコ・レポートは完全普及の障害として児童労働、感染症、障害児童の存在をあげており、JNNEでは今年度授業料撤廃などによる児童労働削減などに取り組んだ。また今年度洞爺湖で開かれたG8サミットの教育成果についての評価を発表。その成果として 首脳宣言で教員不足への取り組みを表明したこと。日本政府がG8サミットなどをフォローアップするために全員参加型の国際教育協力連絡評議会の設置を決定したことをあげた。</p> <p>今年も世界180カ国のNGOや教職員組合が運営する「教育のためのグローバル・キャンペーン」が4月23日に地球上で一斉に「世界一大きな授業」を実施、日本ではJNNEのイニシアチブで214校の小・中学生2万5838人が参加、全世界で750万人以上が参加のギネスブック（200万人）を超える記録となった。JHPからも講師を派遣して「世界一大きな授業」実現に貢献した。</p>																																								
団 体 名	北海道NGOネットワーク																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌を中心とした地域の情報収集、他団体との情報交換を行うことができた。 																																								
団 体 名	カンボジア市民フォーラム																																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年7月27日に実施されたカンボジア国政選挙の監視員として市民フォーラムから現地駐在員を含め4人が事前監視活動に、18人が選挙当日の監視活動に参加した。このうち3人が日本から参加したが、当会より理事の吉岡が7月18日より8月2日まで監視活動に参加した。選挙は平穩に実施され、与党人民党の圧勝に終わったが、野党は選挙人登録過程に不正行為があったと結果に異議を唱えている。 ・2009年2月7日、8日の2日間カンボジア市民フォーラム設立15周年記念シンポジウムが東大駒場キャンパスで開催され、JHPが教育分野の報告を担当した。 																																								